

新技術・情報名	ハウスミカン果実の奇形果防止や果実肥大に有効な昼夜温
場所名	長崎県果樹試験場
<p>1. 成果の内容</p> <p>1) 技術・情報の内容及び特徴</p> <p>ハウスミカンの奇形果防止に有効な生理落果期の昼夜温、果実肥大を促進する果実肥大期の昼夜温を明らかにした。</p> <p>(1) 生理落果期は日平均気温19℃で推移したほうが、23℃で推移した方より、生理落果が少なく母枝当たりの結実率が高く、収穫時の果径指数が高く扁平な果実となる。</p> <p>(2) 果実肥大期は、日平均気温25℃で推移したほうが、21℃で推移した方より果実肥大がよく、果実着色の進度も早い。</p> <p>2) 技術・情報の適用効果</p> <p>生理落果期は、低温で推移させたほうが着果率が高く、扁平な果実となり果実肥大期は、高温で推移したほうが、果実肥大、着色が進む。</p> <p>3) 適用範囲</p> <p>ハウスミカン栽培地域</p> <p>4) 成果の利活用・普及指導上の留意点</p> <p>生理落果期は高温で管理すると、結実率が低く、果形が腰高になりやすい夜温は17～18℃で管理する。</p>	

## 2. 具体的データ

表1 生理落果期から着色期までの  
1日あたり平均気温

		生理落果期	果実肥大期	着色期
		℃	℃	℃
高温区	最高	24.9	27.1	27.6
	最低	21.2	22.4	21.8
	平均	23.1	25.1	24.4
低温区	最高	21.7	23.3	27.6
	最低	17.4	18.5	21.6
	平均	19.4	20.5	24.1

表2 生理落果期の温度処理と結実率

処理区	母枝当たり			
	節数	着花数	着果数	着果率
高温	9.6	11.9	2.0	16.8
低温	9.8	10.5	2.5	23.8

注) 開花日: 1月3日

処理期間 1月8日～2月5日(29日間)

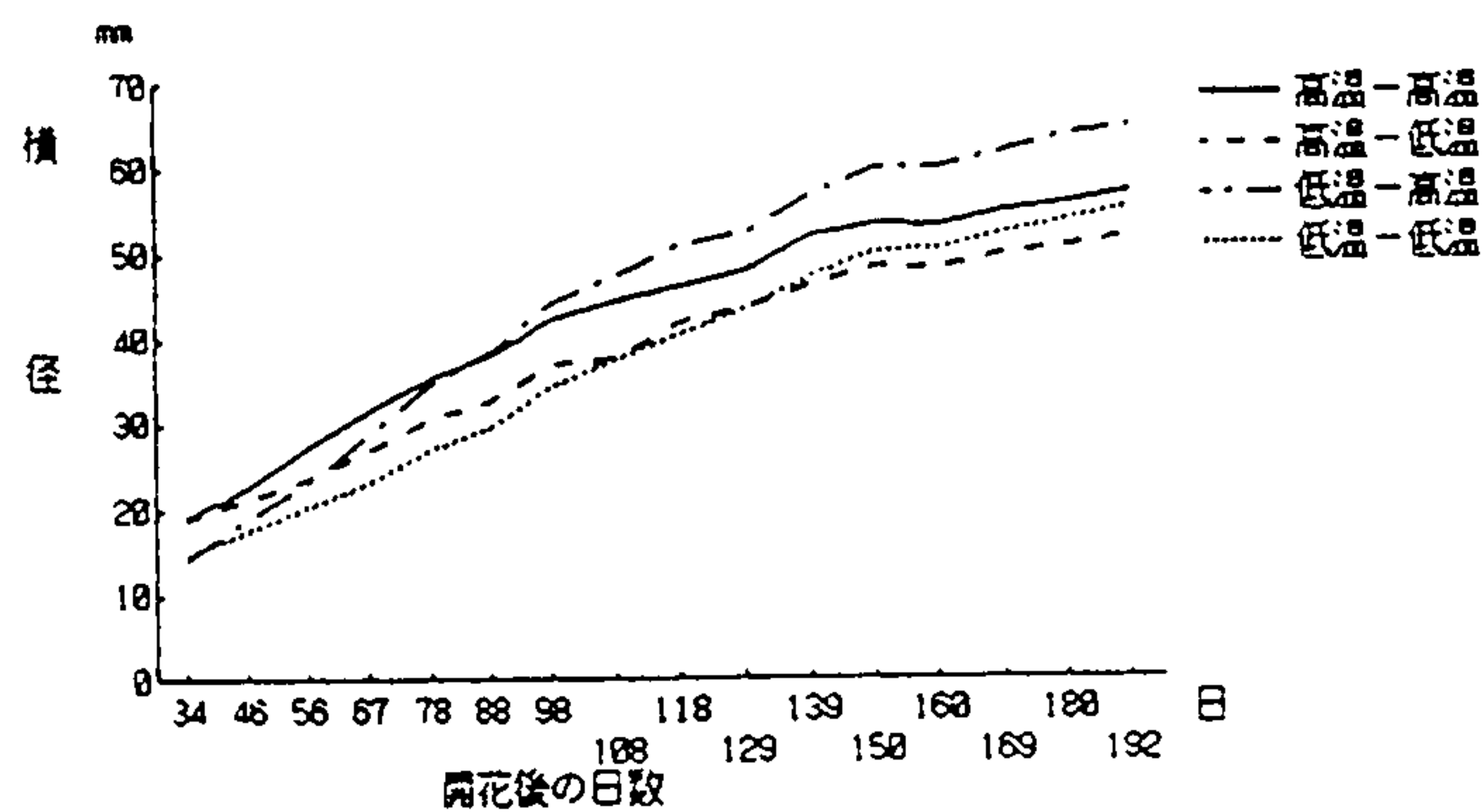


図1 温度処理と果実肥大(横径)の推移

表3 温度処理と果実形質

7月12日収穫

処理区	着色歩合	縦径	横径	果径指数	果実重	糖度	酸含量
生理落果期	果実肥大期	mm	mm		g		g/100ml
高温	高温	8.5	44.2	56.9	129	85.3	10.5
高温	低温	3.6	40.3	51.6	128	65.9	9.3
低温	高温	8.4	46.8	64.6	138	110.4	9.7
低温	低温	2.6	41.6	55.1	133	76.5	8.4

注) 生理落果期: 1月8日～2月5日 果実肥大期: 2月6日～6月2日

## 3. その他特記事項

担当部科名: 常緑果樹科

研究課題名: カンキツ類の環境制御による高付加価値果実の生産と流通技術の開発

研究期間: 平成1～5年

発表資料等: 平成3年度長崎県果樹試験場業務報告